

若手研究者ネットワーク アニュアルレポート2013

2014 年4 月

日本学術会議 若手アカデミー委員会

若手研究者ネットワーク検討分科会

目次

若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会 委員長挨拶.....	3
1. 2013年度 活動概要.....	4
若手研究者のアウトリーチ活動の促進.....	4
改正労働契約法に関する若手研究者アンケート実施.....	4
若手ネットワーク運用に関する若手の会代表者会議（2013年11月15日）.....	5
若手研究者の学术交流（2014年3月7日）.....	6
2. 若手研究者ネットワーク参加団体活動報告.....	9
団体リスト（あいうえお順）：22件.....	9
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会.....	10
地域農林経済学会 若手の会.....	12
「社会階層と健康」若手研究者・大学院生の会.....	14
情報処理学会「若手研究者の会」.....	15
精密工学会アフィリエイト委員会.....	16
電気化学会北海道支部若手の会.....	19
天文教育普及研究会 若手の会.....	20
日本疫学会 若手の会.....	21
日本家庭科教育学会若手の会.....	22
日本教育行政学会若手ネットワーク.....	23
日本行動科学学会若手の会.....	24
日本ゲノム微生物学会若手の会.....	25
日本産業衛生学会 若手研究者の会.....	27
日本神経化学会若手研究者育成セミナー.....	28
日本心理学会 若手の会.....	29
日本生理人類学会若手の会.....	30
日本蚕糸学会 若手の会.....	32
日本草地学会若手の会.....	33
日本畜産学会若手企画委員会.....	34
農業気象学会若手研究者の会.....	36
文化人類学 若手懇談会.....	37
若手有志 IVR 医の会.....	38
3. おわりに.....	40

若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会 委員長挨拶

日本学術会議若手アカデミー委員会は、2012年度より「国内若手研究者ネットワーク」の構築と運営を開始し、おかげさまで3年度目を迎えます。主に学協会に属する若手の会代表の方々のご登録は、この間85団体を越える規模となりました。

2013年度は、若手ネットワーク間の交流、若手科学者意見の集約を具体的な活動内容とするとともに、2014年秋に設置される「第23期日本学術会議 若手アカデミー」への運用引継ぎを視野に運営をさせていただきました。中でも、2013年12月に国会成立した「研究開発力強化法および任期法の改正による労働契約法の例外」（研究者は例外的に10年とする）につきましては、本若手研究者ネットワークからの1800件以上の若手研究者の意見¹⁾は、ネットワーク発足以来の非常に大きな成果と考えております。

分科会は、これまでのネットワークの歩みと今後の継続性に関する必要事項をとりまとめ、2014年度中に提言（または報告）として日本学術会議より発信させていただく準備を進めております。

ネットワークに属する若手の会代表者の皆様を含め、若手アカデミー委員個々人の周辺にも、所属や職位に大きな変化が訪れる年齢層ではないかと思っています。是非、今後のネットワーク、所属される若手の会、ひいては各学問分野の今後の発展と継続性について、活発な意見交換を進めるとともに、若手研究者が社会へいかに貢献していくか、を一緒に考えていければと思います。

また、この場を借りまして、アニュアルレポート作成にご協力いただきました22件の代表者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

今後とも、若手研究者ネットワーク活動をよろしくお願いいたします。

日本学術会議 若手アカデミー委員会
若手研究者ネットワーク検討分科会
委員長 蒲池 みゆき

1) アンケート結果の詳細については下記のHPをご参照ください。

<http://www.youngacademy-japan.org/network/201310-questionnaire>

1. 2013年度 活動概要

2013年度に行われたネットワークでの活動は、若手研究者のアウトリーチ活動の促進（9月）、改正労働契約法に関する若手研究者アンケート実施と結果公表（9月～10月）、第2回若手研究者ネットワーク代表者会議（11月開催）、学术交流・若手研究者を取り巻く環境を知るためのシンポジウム開催（3月）である。下記に、それぞれの活動について報告する。

若手研究者のアウトリーチ活動の促進

●サイエンスアゴラのシンポジウムへの参加呼びかけ

若手アカデミー委員会では多くの高校生を対象にした活動を行っている。2011年度より「科学・技術フェスタ in 京都」において、「若手研究者たちと考える、君たちの、そして日本の未来」と題するシンポジウムを2回開催してきており、2013年度には独立行政法人科学技術振興機構の主催するサイエンスアゴラに移して3回目を開催した。この企画は、高校生や大学生と若手研究者が一緒になって、設定したテーマに対して議論し、ブレインストーミングを行うものであり、参加者に研究者を身近に感じてもらうとともに、議論の面白さ、アイデアが研究に形づくられる過程を体験してもらうことを狙いとしたものである。

若手アカデミー委員会は2013年9月、本シンポジウムに広く若手研究者の参加を促すため、若手ネットワークを介して本シンポジウムへの協力を要請した。具体的には、メーリングリストを通じ、自薦・他薦は問わず、シンポジウム企画にふさわしい若手研究者の推薦を依頼した。

結果として、2013年に開催したシンポジウムには、若手アカデミー委員会委員9名の他、若手ネットワークから、日本カウンセリング学会、精密工学会アフィリエイト委員会の若手の会代表者らの参加があり、従来若手アカデミー委員会委員が中心的に運営してきたシンポジウムに一層の多様性が出て、次世代を担う高校生らに対して、一層多様で活発な議論を喚起することができた。

改正労働契約法に関する若手研究者アンケート実施

若手ネットワークの立ち上げと同時期にあたる2012年後半期から2013年前半期にかけて、有期労働契約の反復更新に伴う、いわゆる雇止め不安解消を目的とした改正労働契約法が公布および施行された。通算5年を超えて反復更新された有期労働契約が労働者の申込みにより期間の定めのない労働契約（無期労働契約）に転換されるとの規定は、大学の若手研究者、特に外部資金で雇用されている特任研究員や、年度ごとに契約が更新される非常勤講師に多大な影響を与えることが懸念された。具体的には、無期労働契約を嫌う大学や研究所により、こうした研究者たちがかえって雇止めをされる懸念が強くあり、一部、非常勤講師による抗議活動も始まっていた。

しかし改正労働契約法の基本にある、雇止めの不安をなくし、労働者が安心して働けることができるように、という理念は広く認められているものであり、研究者のみがこれに強く反対することについても議論があった。

こうした状況に鑑み、若手研究者ネットワーク検討分科会は、若手ネットワークを通じて広く若手研究者の意見を募り、それを関係省庁等に周知することで、よりよい解決策を探る活動に貢献すべく、アンケート調査を行った。

2013年9月19日に、若手ネットワークの代表者メーリングリストを通じて、「改正労働契約法に関する緊急アンケート」を実施したところ、約1800件の回答があった。

【アンケート結果詳細 URL:

<http://www.youngacademy-japan.org/network/201310-questionnaire>】

上記のアンケート結果は分科会委員、および日本学術会議幹事会を通して各省庁へ通知され、若手科学者の生の意見が迅速に集約、公表されたものとして注目された。

2013年12月5日には、研究開発力強化法および任期法の改正による労働契約法の例外（研究者は例外的に10年とする）が成立し、その後、12月19日に行われた総合科学技術会議有識者議員懇談会に若手研究者ネットワーク分科会委員が出席してヒアリングを受け意見を陳述した。

【総合科学技術会議参考 URL:

<http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20131219.html>】

一連の活動は、若手ネットワークと若手研究者ネットワーク検討分科会の協働の大きな成果でもあり、若手研究者から多くの感謝の言葉が届いた。

この結果をふまえ、影響力の大きさを考えると、同様の意見集約方式は、様々な分野からの若手研究者のリアルな意見を社会へ直接的に伝える上でも、若手研究者ネットワークならではの活動と位置付けられるものと思われる。

若手ネットワーク運用に関する若手の会代表者会議（2013年11月15日）

2013年10月から11月にかけて改正労働契約法のアンケートの実施・報告が終了し、2013年11月15日、今後の若手ネットワークの方向性を見定めるため、2回目となる代表者会議を日本学術会議会の会議室にて開催した。若手の会からは10名の代表者が参加し、若手研究者ネットワーク検討分科会からは7名の委員が参加した。

出席者全員による自己紹介が行われたのち、3つのグループに分かれ、「若手ネットワークの効果的な活用方法について」をテーマに議論が行われた。さらにグループディスカッションの内容を受けて、総括的な議論が行われた。

総合的な議論では、Facebook やメーリングリストによる情報交換だけでなく、顔を合わせることの重要性が確認された。また、運営側に、価値がある活動を行っているというアピールが足りないという指摘があり、若手ネットワークの発信力を高めることが重要で

あることが確認された。

若手の会代表者 出席者一覧：

お名前（代表を務められる若手の会名称）

伊藤ゆり（日本疫学会「疫学の未来を語る若手の会」）、
上野太郎（日本睡眠学会 若手の会）
狩野光伸（Biocreation 研究会）
清原康介（日本疫学会「疫学の未来を語る若手の会」）
白石壮志（炭素素材学会）
高瀬堅吉（日本行動科学学会若手の会）
塚原直樹（日本畜産学会若手企画委員会）
所 千晴（資源・素材学会，環境資源工学会）
宮田完二郎（次世代医工学研究会）
吉田一郎（精密工学会アフィリエイト委員会）

分科会委員 出席者一覧：

蒲池みゆき（委員長）、横山広美（副委員長）、井藤 彰（幹事）、一ノ瀬友博、
竹村仁美、半場祐子、村上暁信

若手研究者の学術交流（2014年3月7日）

若手研究者をめぐる諸問題への取り組みと学際融合による研究の創出について議論を
すると共に、若手研究者の学術交流を促進するため、公開シンポジウムならびにポスター
セッションを開催した。若手の会からは 25 名の代表者が参加し、若手研究者ネットワ
ーク検討分科会および若手アカデミー委員会からは 9 名の委員が参加した。

公開シンポジウムにおいては、若手ネットワークの継続的運用と拡充、我が国の科学技
術人材政策と若手研究者の育成について若手研究者、シニア研究者、政策担当者などと議
論を行った。若手ネットワークについては、現時点で他に国内若手研究者の意見集約に資
するようなネットワークがなく、関連政策を立案する際に有用な情報を提供できる貴重な
ものであることが指摘された。今後の我が国の若手研究者育成に関しては、科学技術イノ
ベーションを推進していくためには高付加価値を生み出す優秀な人材の育成が必要であ
るが、現状では関連政策と目的との間にミスマッチが多く存在することが指摘された。さ
らに、そのようなミスマッチをなくしていくために若手研究者の抱える問題を把握してい
く必要があること、若手研究者自身が積極的に交流して異分野を繋いでイノベーションを
進める必要があること、そのためにネットワークを活用する必要があることが示された。
総合的な議論では、海外との学術交流の意義や若手研究者の組織化の難しさ、ネットワ
ークへの参加数が現状で比較的少ない人文系若手の会の参画促進の必要性などについて広

く議論され、今後若手ネットワークを積極的に活用していく必要があること、若手ネットワークの自立性を確保していく必要があること、そのためには経済的側面を含めて運営維持のための様々な支援が必要であることが確認された。

ポスターセッションでは、各若手の会代表者らによる研究分野紹介がなされると共に、分野横断型の研究を進めるための体制づくりについて活発な議論が行われた。

(プログラム)

<第一部>

開会挨拶 駒井 章治 日本学術会議 若手アカデミー委員会 委員長

講演

「報告：若手ネットワークの継続的運用と拡充に向けて」

蒲池 みゆき 日本学術会議 若手研究者ネットワーク検討分科会 委員長

「学術会議の若手問題への取り組み」

大西 隆 日本学術会議 会長・東京大学 名誉教授・慶應義塾大学 特別招聘教授

「我が国の科学技術人材政策と若手研究者の育成」

松尾 泰樹 文部科学省 人材政策課長

総合討論 (蒲池委員長、大西会長、松尾課長と共にディスカッション)

閉会挨拶 蒲池 みゆき

総会司会 井藤 彰 日本学術会議 若手研究者ネットワーク検討分科会 幹事

<第二部>

ポスターセッション

発表者(所属) 代表または代理をされている会の名称

木村剛 (東京医科歯科大学) 次世代医工学研究会

藤原健志 (筑波大学) 日本カウンセリング学会

佐藤隆太 (神戸大学) 精密工学会アフィリエイト委員会

工藤和宏 (獨協大学) 異文化間教育学会

櫻井直輝 (東京大学) 日本教育行政学会若手ネットワーク

澤藤りかい (東京大学) 人類学若手の会

稲田晴彦 (筑波大学) 「社会階層と健康」若手研究者・大学院生の会

高瀬堅吉 (東邦大学) 日本行動科学学会

田谷修一郎 (大正大学) 日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

角谷寛 (滋賀医科大学) 日本睡眠学会 若手の会

伊藤ゆり (大阪府立成人病センター), 清原康介 (東京女子医科大学) 疫学の未来を語る若手の会

黒橋禎夫 (京都大学) 情報処理学会若手研究者の会

狩野光伸 (岡山大学) バイオクリエーション研究会

住井英二郎（東北大学）若手アカデミー委員会
友永省三（京都大学）日本畜産学会若手企画委員会

若手アカデミー委員会 出席者一覧：

蒲池みゆき（若手研究者ネットワーク検討分科会委員長）、井藤 彰（若手研究者ネットワーク検討分科会幹事）、一ノ瀬友博、駒井章治（若手アカデミー委員会委員長）、住井英二郎、竹村仁美、田中由浩（若手アカデミー委員会幹事）、半場祐子、村上暁信

2. 若手研究者ネットワーク参加団体活動報告

若手研究者ネットワークアニュアルレポート 2013 の発行に際して、参加団体に活動内容を紹介するレポートの作成をお願いした。

報告いただいたのは、以下の 8 点である。

- 1) 若手の会名称
- 2) 代表者の氏名、所属機関、職位等
- 3) 構成メンバー、人数
- 4) 関連のある学協会名称
- 5) 若手の会のミッション
- 6) 活動内容（定例および 2013 年度）
- 7) 若手の会の課題
- 8) 若手研究者ネットワークに期待すること。

団体リスト（あいうえお順）：22 件

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会
「社会階層と健康」若手研究者・大学院生の会
情報処理学会「若手研究者の会」
精密工学会アフィリエイト委員会
地域農林経済学会 若手の会
電気化学会北海道支部若手の会
天文教育普及研究会 若手の会
日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会
日本家庭科教育学会若手の会
日本教育行政学会若手ネットワーク
日本ゲノム微生物学会若手の会
日本行動科学学会若手の会
日本産業衛生学会 若手研究者の会
日本蚕糸学会 若手の会
日本神経化学会若手研究者育成セミナー
日本心理学会 若手の会
日本生理人類学会若手の会
日本草地学会若手の会
日本畜産学会若手企画委員会
農業気象学会若手研究者の会
文化人類学 若手懇談会
若手有志 IVR 医の会

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会

1. 若手の会名称

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会（愛称：Q・NET）

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

西浜章平、北九州市立大学国際環境工学部、准教授

3. 構成メンバー、人数

化学工学会九州支部に所属する若手研究者・技術者

4. 関連のある学協会名称

化学工学会（九州支部）

5. 若手の会のミッション

九州支部若手の会を側面から支えるとともに、本会会員が所属する団体間で、技術や知識を共有し、人的交流を含めた協力体制を築く。また、活動を通じて化学工学の有用性を社会に示し、会員の増強にも努める。さらに、共同研究へ発展性のある内容に関しては、その橋渡しをし、以て、化学工学の発展に貢献することを目的とする。

6. 活動内容

年2回の運営会議の開催

化学工学会の全国大会における若手・中堅研究者懇親・講演会の主催（各支部の若手研究者の会との共催）

九州地区若手ケミカルエンジニア討論会を運営する若手の会（学生組織）のサポート
化学関連支部合同九州大会における化学工学分野ポスター賞の審査とりまとめ

7. 若手の会の課題

若手教員（特に助教）の著しい減少に伴う会員の減少

企業に所属する会員の増強

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

上記7の課題の一つ目にある、若手教員の減少は分野を問わず、我が国の大学（特に旧七帝大などを除く地方大学）において、大きな問題となっていると考えています。助教に変わり、ポストドク研究者の人数は増加しているものの、不安定なポストであることや数年で所属が変更になることが多いことを鑑みると、学会運営等に積極的に関われる可能性が極めて低いのが現状です。

若手教員の減少は、特に学生（特に大学院生）に対する学会としての指導力の低下を招くことに加え、学会そのものの活力の低下や、数少ない若手教員が本来の研究活動に集中できなくなる等、今後10年程度で大きな問題へと発展すると考えています。

このため、若手研究者ネットワークには、若手大学教員の減少に付随して発生する問題点を整理し、関係機関へ改善要求していただきたく期待しております。

地域農林経済学会 若手の会

‘The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics’ Youth Network

- ・ 代表者の名前、所属機関、職位等

本田 恭子（岡山大学大学院環境生命科学研究科、特任助教）

- ・ 構成メンバー、人数

48名（2013年10月現在）。会員は博士前期課程院生から助教や講師といった若手研究者まで様々です。地域農林経済学会に所属する若手研究者・院生が中心ですが、非学会員も参加しています。

- ・ 関連のある学協会名称、その関係

地域農林経済学会（The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics）若手の会は地域農林経済学会から承認を得ていますが、活動は独立して行っています。ウェブサイト（<http://a-rafe.org/68/0>）

- ・ 若手の会のミッション

若手研究者・院生間での研究に関する交流を促し、研究をブラッシュアップできる機会を増やすことを目的としています。

- ・ 活動内容

毎年10月に開催される地域農林経済学会研究大会の期間中に活動報告会と交流会を開催しています。また、会員の要望に応じて、統計学の勉強会や論文の輪読会、研究報告会を随時開催しています（これまで8回開催）。活動場所は関西が主ですが、東京でも行っています。また、2012年より雑誌（「農業と経済」誌）の書評依頼を仲介する活動も始めました。これは若手研究者・院生が執筆経験を積み、業績を増やすことを目的としています。

- ・ 若手の会の課題

現在の若手の会の課題は次の3点です。

- ・ 遠方のため研究会や勉強会へ気軽に参加できる状況にない若手研究者・院生へどのように対応していくか

- ・ 単なる交流や研究紹介だけに終わらせない工夫をどうするか

- ・ 自身の研究や職務に追われる若手研究者・院生が多い状況で活動をどう進めていくか
また、とくに関西地方では大学間の距離が離れているため、大阪駅などターミナル駅の周辺で無料もしくは安価で小規模な会議室（30人程度の）があると便利ですが、そのような

部屋の確保が難しい状況です。

- ・ 若手研究者ネットワークに期待すること
- ・ 上記課題の解決に向けて、他分野の若手ネットワークと情報交換を行いたい
- ・ 様々な分野の若手研究者が集まる場であることを活かして、学際融合を進めたり、若手の会が抱える問題の解決に向けて政府等に何らかの働きかけを行うことなどを期待したい

「社会階層と健康」若手研究者・大学院生の会

1. 「社会階層と健康」若手研究者・大学院生の会
2. 稲田晴彦、筑波大学医学医療系、助教
3. 若手研究者、大学院生、実務家を中心。200人。
4. 文科省科研班（旧平成 21～25 年度文部科学省科学研究費新学術領域研究（研究領域提案型）現代社会の階層化の機構理解と格差の制御 社会科学と健康科学の融合）
5. 現代社会の階層化と健康格差のメカニズムの理解および健康格差の制御方策の立案に関する研究を行う若手研究者を育成すること。健康科学と社会科学を統合した新しい学術領域の確立に向けて、多様な背景を持つ若手研究者が、人的ネットワークを広げ、お互いに学ぶ場を提供すること。
6. 定例の活動として、メーリングリストの運営、研究班の研究会への参加、合宿を行っている。2013 年度には、研究班が主催した国際会議における若手研究者の教育をテーマとするシンポジウムの開催、ボストン支部の開設も行った。
7. 異分野出身者間のコミュニケーションが難しいこと。運営メンバーが医学・公衆衛生学分野に偏り、引き継ぐ人が不足していること。
8. 日本学術会議や文部科学省などとのコネクション、会の一層の学際化

情報処理学会「若手研究者の会」

1. 若手の会名称

情報処理学会「若手研究者の会」

2. 代表者氏名、所属機関、職位等

黒橋禎夫、 京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻、教授

3. 構成メンバー、人数

40 研究会などから推薦された 30 歳代～40 歳半ばの約 40 名

4. 関連のある学協会名称、その関係（学会内に設置しているか、独立の会か）

一般社団法人情報処理学会の学会内に設置

5. 若手の会のミッション

- (1) 分野ごとに構成される 40 研究会の分野を超えた若手研究者の連携の構築
- (2) 若手研究者の視点からの新たな研究分野や新たな研究会の運営などの提案
- (3) 内外の求めに応じた若手研究者の意見集約
- (4) 若手研究者の質の向上に向けた対応検討・提案
- (5) その他、理事会、政策提言委員会等への各種提案など

6. 若手の会、活動内容

幹事会 2 回、全体会議 2 回、関連省庁等との意見交換会（学会の政策提言委員会と共催）を行った。その成果として、若手研究者の会から学会に対して以下の提案を行い、いずれも実現された、または実現に向けて検討されている。

- 研究会の学生運営委員制度の導入
- 「改正労働契約法の無期労働契約への転換ルール」に対する声明
- 研究会等の動画配信・アーカイブ化の拡大
- 新会員サービスの提案として、全国大会等での託児サービスの実施
- 日本学術会議 若手研究者ネットワーク公開シンポジウムおよび学際交流ポスターセッションへの参加(2014. 3. 7)
- 第 76 回情報処理学会全国大会企画セッション「学会へ行こう！若者の夢を実現できる場所」を実施

7. 当該分野の若手の会の課題

情報処理学会「若手研究者の会」は 2013 年 1 月に発足し、2013 年度は 1 年間の試行的活動を行った。2014 年度からは本格的活動を目指す。

8. 若手ネットワークに期待すること

日本の学術分野での国際競争力の維持・向上のためには、特に、卓越した若手研究者に対する十分な研究費の確保、先進的な研究環境の整備、パーマネントなポストの確保など、さまざまな施策の実行が喫急の課題であり、日本学術会議からの国への提言などを積極的かつ継続的に行っていただきたい。

精密工学会アフィリエイト委員会

1. 若手の会名称

精密工学会アフィリエイト委員会



2. 代表者の名前，所属機関等

吉田 一郎（よしだ いちろう），株式会社小坂研究所 精密機器事業部 開発企画チーム
課長 博士（工学）

3. 構成メンバー，人数

アフィリエイト選考委員会にて認定された，35歳以下の精密工学会正会員または学生会員．正会員，賛助会員，学会関連組織からの推薦，または学会理事会からの推薦に基づく．2014年度は，68名（大学・高専52名，企業12名，産総研・公設試4名）．（2014.03.31時点）

4. 関連のある学協会名称，その関係（学会内に配置しているか，独立の会か）

公益社団法人 精密工学会 事業部会の下部組織として，2009年度に発足．
（精密工学会 会員数：6000人弱（2011年））

5. 若手の会のミッション

精密工学分野における若手人材の確保，学際的な若手人材の育成，および若手人材間のネットワークの構築．

6. 若手の会，活動内容

①研究会および見学会の開催（年2～4回）

アフィリエイト委員会メンバによる話題提供と討論，外部講師による特別講演，関連企業や大学の見学を行っている．これまでの見学先としては，東京大学（2009），三菱電機株式会社（2009），株式会社ナノ（2010），大阪大学（2010），熊本大学（2011），株式会社小坂研究所（2011），静岡大学（2012），神戸大学（2012），東京工業大学（2013），産業技術総合研究所（2013），株式会社ジェイテクト（2013），東京大学 生産技術研究所（2014）など．懇親会もあわせて開催している．

今後，独立行政法人 国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校及び沖縄科学技術大学院大学（OIST）（2014），岡山大学（2014），株式会社北熱（2014），栃木県産業技術センター（2015）などが計画されている．

※当該研究会および見学会はオープンな形式としているため，若手研究者ネットワークの皆様のご参加もお待ちしております．（本会委員の紹介であれば，あらゆる方のご参加が可能です）

②精密工学会誌への連載記事の掲載

・自己紹介記事: 毎号3名ずつ, アフィリエイト認定者の自己紹介記事を連載している. 研究内容の紹介欄と自由記述欄とからなる.

・アフィリエイト留学記: 海外留学経験のありアフィリエイト認定者が, 留学に至った経緯, 留学中の体験, 海外の研究動向, および海外留学へのアドバイスを2~4ページ程度にまとめて学会誌に連載している.

・解説 博士論文: アフィリエイト認定者が, 博士課程進学に至った経緯, 博士課程での経験, 博士論文の内容, および修士課程の学生や企業の研究者に対するアドバイスを4~8ページ程度にまとめて学会誌に連載している.

③座談会の開催と情報発信

学会の著名な研究者を招いてアフィリエイト委員会メンバとの座談会を行ったり, 科学の進歩の基礎となっている産業界の団体との座談会を開催し, その内容を学会誌に掲載している. このほか, 研究会や見学会の内容を学会誌で紹介している. このほか, 現在ホームページによる情報発信, 学会誌に掲載された記事の一部の公開をおこなっている. Facebookなどのソーシャルメディアによる情報発信は, 審議, 検討している.

<http://affiliate.jspe.or.jp/>

④精密工学会春季大会での卒業研究発表会の運営

精密工学会春季大会で開催される卒業研究講演会の運営を担当している. 卒業研究講演会では, 詳細な審査による表彰を実施したり, 最優秀発表者に対して学会誌への研究紹介記事の執筆機会を設けるなど, 若手研究者, 科学者の育成に力を注いでいる.

⑤小学生, 中学生向けセミナーの開催

2014年6月に小中学生を対象とした, 精密工学分野や理工学分野の実習セミナーの実施を主催している. 本セミナーは, レスキューロボットコンテストと同時開催企画であり, 日本ロボット学会も協賛している. 小中学生およびその保護者の方に理工学分野を知ってもらう機会を作り, 将来の選択肢を広げていただくことをねらいとしている.

<http://www.rsj.or.jp/blog/archives/4808>

⑥各世代間の連携の活性化

アフィリエイト委員会は該当する世代間の連携を核として, 該当世代外の方々との交流・連携も推進している. 具体的には, アフィリエイト委員会OBやその上の世代の若手の会の出身者, 精密工学会の役員世代, 精密工学会フェロー世代との交流を推進, 計画している.

例えば、座談会の実施や 40～50 代の学会会員との意見交換と共同企画の検討が挙げられ、また、フェロー世代を招いての講演・交流会を計画している。若年世代との交流としては、2014 年 6 月に小中学生向けセミナーの実施や高専生向けの講演会や相談会を計画している。アフィリエイト委員会が核となり、各世代の活性化を図ることをねらいとしている。

7. 当該分野の若手の会の課題

- ・精密工学分野における若手人材の減少傾向。
- ・学際的な共同研究を実施することの難しさ。

8. 若手ネットワークに期待すること

- ・異分野間の人材交流を通じて、新しいニーズおよびシーズが創出されること。
- ・共同研究の実現などの結果にこだわらず、連携の場や交流の場となること。

9. 若手ネットワークへの参画実績

・本精密工学会アフィリエイト委員会は、2012 年度より日本学術会議若手研究者ネットワークへ

参画し、積極的に若手アカデミー委員会への出席やネットワーク検討分科会へのオブザーバ出席している。

・日本学術会議若手研究者ネットワークのイベント等への参画実績は、次の通りである。

2013 年 3 月 16 日（土）15:30～17:00 京都パルスプラザ大展示場特設ステージ：科学・技術フェスタ in 京都 2013 「若手研究者たちと考える、君達の、そして日本の未来」

2014 年 11 月 10 日（日）13:00～14:30 東京国際交流館 4 階会議室 1：サイエンスアゴラ 「若手研究者たちと考える、君達の、そして日本の未来」

2014 年 3 月 7 日（金）13:00～15:20 日本学術会議：公開シンポジウム 「若手研究者ネットワーク活用に向けて一若手研究者をめぐる諸問題へのとりくみと学際融合による研究の創出」、15:30-17:00 「ポスターセッション」（分野を越えた学際交流）

精密工学会アフィリエイト委員会は、今後も積極的に参加する予定である。

電気化学会北海道支部若手の会

1. 若手の会名称

電気化学会北海道支部若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

電気化学会北海道支部長：安住和久・北大工学部・教授

電気化学会北海道支部若手の会：辻悦司・北大工学部・助教

3. 構成メンバー、人数

北海道に所在する大学の若手教員・博士課程学生・修士課程学生・学部生 106 名

4. 関連のある学協会名称

電気化学会

5. 若手の会のミッション

セミナー等を通じて、電気化学会に所属する若手研究者の交流を推進する。

6. 活動内容（2013 年度）

平成 25 年 6 月 15 日（土）、16 日（日）に小樽市の小樽自然の村おこばち山荘にて、「第 29 回ライラックセミナー・第 19 回若手研究者交流会」を開催した。一般 16 名，学生 83 名，ライラックセミナーの講師 3 名（大阪大学桑畑進，北海道大学八木一三，北海道大学忠永清治），若手研究者交流会の講師 4 名（北海道大学本林健太，北見工業大学古瀬裕章，北海道大学小林厚志，北海道大学佐藤威友）の計 106 名が参加し，昨年度に続き 100 名を超える規模となった。イオン液体，燃料電池，光エネルギー，レーザー，半導体材料，分光と幅広い分野の興味深いトピックスを聞くことができ，大変有意義な会となった。若手研究者のポスター発表では 17 件の発表があり，うち 3 件に対して優秀ポスター賞を授与した。ポスター発表時の質疑応答やその後の懇親会を通じて，若手研究者間の交流を深めることができた。

7. 若手の会の課題

セミナーの予算が厳しいのが現状であり（今年度は懇親会費などを削減），来年度以降は更なる引き上げが必要であると考えられる。また，講師以外で北海道大学以外からの参加者はなく，この点も今後の検討課題である。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手の会への経済的支援のシステムづくり

天文教育普及研究会 若手の会

1. 天文教育普及研究会 若手の会
2. 高梨直紘、東京大学、特任准教授
3. 会の 20~30 代の会員、12 名
4. 天文教育普及研究会
5. 会のビジョン提言
6. オンラインでの議論と、それを受けての具体的活動
7. 議論の活性化
8. 異分野の交流やイベントの企画

日本疫学会 若手の会



日本疫学会
Japan Epidemiological Association

1. 若手の会名称

日本疫学会 若手の会

正式名称：日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会

(<http://youth.jeaweb.jp/>)

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

伊藤ゆり 大阪府立成人病センターがん予防情報センター・研究員

清原康介 東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座・助教

3. 構成メンバー、人数

若手の会メーリングリスト登録者 約 230 名

…院生（博士課程）から 30 代が中心だが、自称「若手」であり、年齢層は多様。

中心構成員（＝世話人） 10-15 名

若手の集い（年 1 度の集会）の参加者

…約 100 名 院生（博士課程）から 30 代が中心。

4. 関連のある学協会名称

日本疫学会

5. 若手の会のミッション

学術的な議論のみならず、雑談や近況報告なども交えて気楽な雰囲気での疫学研究の進歩発展と若手疫学者相互の交流を図ることを目的としています。

6. 若手の会、活動内容

「疫学の未来を語る若手の集い」を日本疫学会総会の前日に開催しています（年 1 回）。毎年、若手疫学者の関心が高いテーマを選定、企画しており、疫学会会員、非会員を問わず多数の若手研究者が出席しています。直近 3 年のテーマは下記のとおりです。

2014 年「若手研究者の分野間交流～異分野コラボレーション研究の創出を目指して～」

2013 年「疫学と異分野のコラボレーション～脳科学、経済、GIS と疫学～」

2012 年「座談会：疫学者のキャリアパスを考える」

また、「疫学の未来を語る若手の会メーリングリスト」では、疫学研究に関する課題や疑問について若手の会の会員同士で随時、意見交換を行っています。

7. 当該分野の若手の会の課題

若手同士の議論をもっと活発化したい

学会を支えるためにも若手を中心とした会員数の増加

8. 若手ネットワークに期待すること

オンライン・オフライン問わず、分野をまたいだ若手研究者同士の交流の場を設定してくださることを期待しています。

日本家庭科教育学会若手の会

1. 若手の会名称

日本家庭科教育学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

中山節子、千葉大学教育学部、准教授

3. 構成メンバー、人数

大学所属会員 30～40 代、中心で活動しているのは 30 人程度

4. 関連のある学協会名称

日本家政学会

5. 若手の会のミッション

・「家庭科」に関する研究、教育活動に取り組む若手の研究者、学生、小中高等学校の教員などが語り、学び、互いに高め合う場や機会を提供する。

・「家庭科」に関する研究、教育活動に関わる若手の研究者、学生、小中高等学校の教員などのネットワークを構築し、情報の受発信と共有化をはかる。

6. 活動内容

2013 年 6 月弘前大学にて、日本家庭科教育学会若手の会交流会を開催し、現在の研究内容や教育実践についての興味関心、課題などを話題として、それらを共有した。設立したばかりのこの会の活動についても検討を行った。

7. 若手の会の課題

ネットワークの構築と継続的な活動

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

異なる領域・多領域の若手研究者の交流により自分の学問領域を越えて新しい学問体系の創生と興隆を目指していければよいと思います。

日本教育行政学会若手ネットワーク

1. 若手の会名称

日本教育行政学会若手ネットワーク

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

青木栄一、東北大学大学院教育学研究科、准教授

3. 構成メンバー、人数

入会要件：毎年4月1日時点で45歳以下の日本教育行政学会の会員
2014年4月時点で入会案内を開始したところ

4. 関連のある学協会名称

日本教育行政学会の中に置かれている

5. 若手の会のミッション

日本教育行政学会の若手会員相互の情報交流等を通じた若手会員の研究推進と学会活動の活性化

6. 活動内容

グループウェアを用いた情報交流
若手ネットワークシンポジウム交流ポスターセッションに参加

7. 若手の会の課題

立ち上げたばかりなので課題を認識していない

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

人文・社会科学系の重要性を関係機関に伝えていただきたい

日本行動科学学会若手の会

1. 若手の会名称

日本行動科学学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

高瀬 堅吉、東邦大学、講師

3. 構成メンバー、人数

学会員（原則 45 歳以下）、コアメンバー5 名（その他、45 歳以下の学会員複数名）

4. 関連のある学協会名称

日本心理学会、日本行動医学会、日本行動分析学会 等

5. 若手の会のミッション

日本行動科学学会では、異常行動研究会時代の実験／臨床心理学のみならず、脳神経科学、精神薬理学、動物行動学、行動分析学など、さまざまな背景を持つ会員が、行動の総合科学を目指して、活発な研究活動を行っています。このような学際性豊かな学会において、他学会の若手研究者との積極的な人的交流、情報交換を推進することが本学会若手の会のミッションです。

6. 活動内容

夏の年次大会および冬のカンファレンスで会合を持ち、情報交換を行っています。

7. 若手の会の課題

学会の規模が小さいので、クイックネスを備えていることが特長ですが、その規模が災いして大きな活動（例、若手研究会の開催など）を行うことができていません。今後は学会の規模拡大と並行して、若手の会の規模をある程度拡大したいと考えています。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

現在の方向性を維持しつつ、より活発な活動を行っていただきたいと思っています。先日参加させていただいた学際交流ポスター発表会ではとても有意義な時間を過ごすことができました。今後も、そのような機会を増やしていただけたらと思っています。

日本ゲノム微生物学会若手の会

1. 若手の会名称

日本ゲノム微生物学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

相馬亜希子、千葉大学園芸学研究科、助教

3. 構成メンバー、人数

教員・研究員・学生、約70人

4. 関連のある学協会名称

日本ゲノム微生物学会

5. 若手の会のミッション

日本ゲノム微生物学会若手の会は、日本ゲノム微生物学会の支援の基に、微生物学研究の次世代を担う若手研究者の交流と情報交換を通し、微生物や微生物ゲノムに関わる基礎・応用研究をより活発なものにすることを目的としている。

6. 活動内容

年1回開催している研究会では、ゲノム研究に限らず様々な分野の微生物学研究者が集まり、お互いに研究の背景、基盤技術、研究データ等を紹介し、活発に議論し合うことで、知識の向上や新たな研究者ネットワークの構築を行っている。

2013年度は9月19日ー20日の日程で静岡県駿東郡で開催された。2名の新進気鋭の若手研究者による特別講演のほか、企業で研究に携わる女性研究者のキャリアプランについての講演、企業ランチョンセミナーを開催し、大きな反響を得ることができた。また、本研究会の趣旨に賛同して頂ける企業各社から協賛金を独自に募り、それを学生の参加支援に充てることで、次世代を担う研究者の育成にも微力ながら取り組んでいる。

本研究会のウェブサイト

<http://bioinfo.ie.niigata-u.ac.jp/MicroWakate/>?

7. 若手の会の課題

学会や研究会、特に共通点を有する分野の若手の会が数多く存在する昨今、今後はどのような趣旨のもと、また、どのような参加者をターゲットにして運営するべきかを検討する必要がある。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

若手研究者が求めている具体的な支援や制度改革などの意見集約とそれを実現するための提言。他分野との技術的な交流による学際的研究の葬制と発展。

日本産業衛生学会 若手研究者の会

1. 若手の会の名称

日本産業衛生学会 若手研究者の会

2. 代表者の氏名，所属機関，職位等

和田耕治，独立行政法人国立国際医療研究センター国際医療協力局，
野村恭子，帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座，准教授

3. 構成メンバー，人数

日本産業衛生学会の会員のうち，当会の趣旨に賛同した者（年齢制限は特になし）
57名（ML登録者数）

4. 関連のある学協会名称，その関係

日本産業衛生学会の生涯学習委員会内に設置

5. 若手の会のミッション

産業衛生領域における研究の開始から論文発表，現場への適応までの方法論や研究
技術等を学び，交流する場を提供する。

6. 活動内容

定例の研究会の開催（年2回）

メーリングリスト上での討議

7. 若手の会の課題

より多くの参加者を集め，若手研究者間のネットワークを構築し，研究活動の深化
に向けた議論を活発化したい。また，産業衛生領域の若手研究者の研究活動を活性化
させることを目的としたアワードを設立したい。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

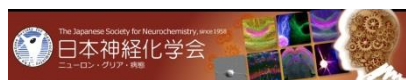
他の領域の若手研究者と交流し，研究活動の支援・促進に関する情報交換等がで
ればうれしい。

日本神経化学会若手研究者育成セミナー

1. 若手の会名称

日本神経化学会若手研究者育成セミナー

(<http://www.neurochemistry.jp/youth/>)



2. 代表者の方のお名前、所属機関、職位等

小泉修一（仮）、山梨大学医学部薬理学、教授

3. 構成メンバー、人数

年会開催時の活動を基本とする。その際セミナー参加者を構成員としているため年毎の変動が大きい。50-100名。世話人は10名。

4. 関連のある学協会名称、その関係

日本神経化学会 (<http://www.neurochemistry.jp>)。サポートを受けている。

5. 若手の会のミッション

日本神経化学会は、世界で最も長い歴史と最大級の会員数を有する「神経化学」の学会で、「脳と神経の病気の原因や発症の仕組みについて分子実体を基盤として明らかにしていく」ことを主たる使命としている。またその実現の手段として、時間を十分にとって議論を尽くすこと、若手を育成すること、を掲げている。本若手セミナーは、この姿勢及び哲学を学び、消化し、著しく発展させること、その人材を発掘・育成すること、をミッションとしている。

6. 若手の会、活動内容

年1回の神経化学会大会時を主な活動に充てる。第一線で活躍している講師（+若手チューター）+若手研究者（学生、大学院生、ポスドクなど）からなる少人数グループを複数構成し、全員が膝を交えて、サイエンス、進学、留学、就職のこと、さらにラボの先生には相談し難い話題等々、二晩、夜を徹して語り合う。講演のタイトルは、最先端のサイエンスに関する話題以外も含めて極めてバラエティーに富む。こうした自由な討論、大学・研究室の壁を越えた交流を通じ、魅力的な研究者・人間の育成を目指す。

7. 当該分野の若手の会の課題

若手チューター制度を採択した（過去の若手の会参加者で、本会を積極的に先導してくれる人材）。若手チューター発掘とその定着が、本会の発展に重要であると考えているが、若手はそんなことよりも1分でも研究活動に時間を充てるべき、との意見もある。

8. 若手ネットワークに期待すること

他学会（例えば生物学的精神医学会）等との交流を開始した。更にヘテロな人材との交流を通して、新しい研究分野を創出すること、新しい人的交流を広げたい。

日本心理学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本心理学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

鈴木華子、筑波大学留学生センター、助教

小川健二、北海道大学大学院文学研究科、准教授

3. 構成メンバー、人数

修士課程もしくは博士課程在学中、もしくはその修了時点から10年以内の日本心理学会会員。現在(2014年4月)は一般会員募集前のため運営委員12名のみ。

4. 関連のある学協会名称

公益社団法人 日本心理学会

5. 若手の会のミッション

心理学に関わる若手間のネットワークを構築し、日本心理学会内外との情報交換、若手会員間の交流促進、研究・教育・応用水準の向上、および社会貢献を目指すことで、若手の育成および将来の心理学の発展に寄与する。

6. 活動内容

- ・会員を対象とした情報交換、および連携活動を行なう。
- ・若手の業績向上に資する活動を行なう。

本年度はまず運営委員が、大会グループ(日本心理学会年大会における企画シンポジウムや研究交流会の実施を行なう)と情報発信・交換グループ(若手間の情報交換の促進や情報発信、それによるメンバーのリクルート、書籍出版等を行う)に分かれ、チームごとに活動を具体化して進めている。

7. 若手の会の課題

2013年9月に発足したばかりのため、組織活動の立ち上げと活性化、および一般会員の勧誘等

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

分野を超えた若手研究者としての問題意識や解決策の共有

日本生理人類学会若手の会

1. 若手の会名称

日本生理人類学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

本井碧（もといみどり）、九州大学大学院統合新領域学府、博士後期課程／学術振興会特別研究員 DC

3. 構成メンバー、人数

学会の大会開催に合わせて行われる研究会等に、学生から若手研究者を中心として30名以上が参加している。

4. 関連のある学協会名称、その関係

日本生理人類学（学会内に設置）

5. 若手の会のミッション

生理人類学を志す若手研究者が大いに語り合い、親睦を深め、研究活動の活性化をはかることを目的としている。

6. 活動内容

・若手研究者発表会（年2回）…日本生理人類学会大会の前日に開催。当学会所属の若手だけでなく、周辺領域の若手研究者を招聘して最新の知見をご紹介いただき、広い視点を持った議論を展開する。2013年度は金沢大学および同志社大学にて開催。

・若手の会国際交流会（不定期、年1回程度）…国際生理人類学連合インターコンgresにに合わせて開催。上記の研究発表会の内容に加え、さらに現地の若手研究者との国際的な交流を目的とする。2013年度はカナダにて開催。

・夏期セミナー（年1回）…セミナー内の若手の会企画として、学生・若手研究者の交流を深めるためにポスターセッションとワークショップを実施。セミナーでは講習会や本学会研究部会も行われている。2013年度は京都にて開催。

・SNSによる情報交換（不定期）

7. 若手の会の課題

若手研究者同士の交流を通じた個々の研究活動の活性化とともに、生理人類学の研究者としての基盤部分、および生理人類学全体に対して若手の会がどのような貢献ができるか、今後さらに整備する必要あり。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること
若手研究者全体の意見の集約、政策等への提言。

日本蚕糸学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本蚕糸学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

塩見邦博、信州大学繊維学部、准教授

3. 構成メンバー、人数

日本蚕糸学会に所属する45歳以下の若手研究者、大学院および学部生、207名

4. 関連のある学協会名称

5. 若手の会のミッション

- (1) 若手研究者ネットワークとの連携
- (2) 研究集会の開催
- (3) アピール活動
- (4) 研究費の申請
- (5) 書籍の出版

6. 活動内容

2013年は若手の会の発足に伴い（平成25年3月18日に発足）、会員への参加の呼びかけを行なった。また、「カイコによる新生物実験」（森 精 編、三省堂）の改定版を若手の会が企画・編集し、出版することを決めた。

7. 若手の会の課題

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

多分野の学会との合同企画が円滑に行なえるように橋渡しをしていただきたい。

日本草地学会若手の会

1. 若手の会名称

日本草地学会若手の会

2. 代表者の名前，所属機関，職位等

川村健介，広島大学大学院国際協力研究科，准教授

3. 構成メンバー，人数

約 10 人（世話人），30 代の有職者（任期付き含む）

4. 関連のある学協会名称

日本草地学会「草地学教育委員会」の下部組織として配置

5. 若手の会のミッション

草地学分野の若手研究者が一堂に会し，ざっくばらんに懇談して親睦を深め，意見交換する場として「若手の会」を 2007 年春に発足した。

若手の会 Web ページ：<http://grass.ac.affrc.go.jp/wakate/wakate-index.htm>

6. 活動内容

夏合宿の開催

2013 年 9 月 28-29 日：東北大学大学院農学研究科附属複合生体フィールド教育研究センター（川渡フィールド）にて開催。参加者 24 名。

7. 若手の会の課題

- ・草地学に携わる若手研究者が抱える研究上の共通・地域的な悩み。
- ・若手研究者のスキルアップ（海外への進出，学術論文の執筆）。
- ・学術研究の領域が広がりつつある「草地学教育」に関する内容。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

草地学会では，かねてより若手研究者の交流の場が少ないことが懸念されている。さらに近年，急速に学術研究の領域広がりつつある中で，若手アカデミー委員会の活動においては，異なる分野を専門とする若手研究者との交流の場を広げる機会として期待している。

日本畜産学会若手企画委員会

1. 名称

日本畜産学会若手企画委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

友永 省三（京都大学大学院農学研究科、助教）

3. 構成メンバー、人数

博士研究員、助教など14名

4. 関連のある学協会

公益社団法人日本畜産学会 (<http://www.jsas-org.jp/index.html>) に属し、「若手奨励・男女共同参画推進委員会」の内部委員会として位置づけられています。

5. ミッション

若手研究者主催のシンポジウムや懇親会を開催し、細分化され高度に専門化した畜産学分野の垣根を超えた会員の交流を図り、相互に補完することにより畜産学研究の進展に寄与することがミッションです。

6. 活動内容

日本畜産学会大会内で開催される本委員会主催シンポジウムでは、開催毎に委員会構成メンバーから中心となる世話人が選出され、世話人の主導により新進気鋭の若手研究者や、若手に負けない熱意を有する経験豊かな研究者に講演して頂いております。これまで、計12回のシンポジウムを開催しております（2014年3月末時点、<http://www.jsas-org.jp/wakate/pastactivities.html>）。若手研究者を対象とした懇親会も大切な活動のひとつで、畜産学分野における研究者間の新たなネットワーク形成の場を提供し、活性化に寄与しています。既に幾つかの共同研究が始まっているほか、学生会員から研究を中心とした相談も受けております。また、畜産学分野における若手研究者向けの読み物をHPに多数掲載しております(<http://www.jsas-org.jp/wakate/readings.html>)。若手ネットワークの活動では、2013年度は、若手研究者ネットワーク代表者会議（2013年11月15日）およびシンポジウム・ポスターセッション（2014年3月7日）に参加しております。

7. 課題

若手の力でより魅力的な企画を行うことで、より多くの畜産学分野の研究者に参画していただくことです。

8. 若手ネットワークに期待すること

異分野の若手の会のみなさまと有意義な情報交換を行うことで、今後の活動に活かしていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

農業気象学会若手研究者の会

1. 若手の会名称

農業気象学会若手研究者の会

2. 代表者の氏名、所属機関、職位等

～2014年3月

石神靖弘（いしがみやすひろ）、千葉大学大学院園芸学研究科、助教

2014年4月～2016年3月

熊谷悦史（くまがいえつし）、農研機構東北農業研究センター、研究員

3. 構成メンバー、人数

農業気象学とその周辺分野の若手研究者および学生、90名

幹事3名で運営

*若手会会員は日本農業気象学会会員であることが望ましいものの、広範な領域の若手研究者との交流を図るため、必ずしも学会員である必要はない。

*自ら若いと認めることが若手会入会資格である（年齢制限なし）。

4. 関連のある学協会名称、その関係

日本農業気象学会内の組織（1977年創設）

ウェブサイト：<http://www.agrmet.jp/wakate/>

5. 若手会のミッション

若手研究者が農学・農業気象学のあり方や研究への抱負・不満について自由な意見を交わし、若手研究者間の交流と切磋琢磨を図ること。

6. 活動内容

- ・全国大会時の企画集会・懇親会の開催

2014年懇親会開催、参加者40名

- ・メーリングリストによる議論・情報交換
- ・ウェブサイトによる情報発信

7. 若手の会の課題

若手研究者数の減少

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

情報交換や議論等、また必要がある場合には、意見集約や合意形成などが行いやすい枠組みとなること

文化人類学 若手懇談会

1. 若手の会名称

文化人類学 若手懇談会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

若手ネット連絡担当 永田貴聖（ながた あつまさ） 立命館大学衣笠総合研究機構
専門研究員

3. 構成メンバー、人数

日本国内の文化人類学を学ぶ大学院生、PD・OD、若手教員等を中心にしたネットワーク。
運営には各地域の文化人類学に関する 20 程度の研究会の代表ないし連絡係代表があたっ
ている。

4. 関連のある学協会名称

日本文化人類学会

アジア社会文化研究会、奥州乃疾風、九州人類学研究会、京都人類学研究会、くにたち
人類学研究会、現代人類学研究会、神戸人類学研究会、国立民族学博物館、仙人の会、中
四国地区人類学談話会、超域人類学ワークショップ、筑波人類学研究会、東京都立大学・
首都大学東京社会人類学研究会、東アジア人類学研究会、北海道歴史文化研究会、まるは
ち人類学研究会、南アジア学会、早稲田大学文化人類学系院生懇話会

5. 若手の会のミッション

文化人類学に関わる若手研究者の交流と現状把握、常勤職への就職サポート、文化人類
学の社会的普及の促進

6. 活動内容

2010年度設立。各地区の情報を紹介するウェブサイト運営のほか、毎年、日本
文化人類学会の研究大会時に懇談会を行い、情報交換につとめている。自主的な組織だ
が、一部、日本文化人類学会理事会の教育委員会や関係機関と連携した活動も行う。

2012年度には若手研究者に対するアンケートを実施。

関連内容は http://d.hatena.ne.jp/young_anthropologists/ にも掲載。

7. 若手の会の課題

就職問題（構造的問題への取り組み、個々人のスキルアップへのサポート、シニア研究
者の関心の喚起）。文化人類学の社会的普及（文化人類学の社会的プレゼンスを高めるた
めの方策の議論）。若手研究者自身が不安定・流動的な状況のなかで、この会をどう持続
的に運営し、議論を継続するか

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

学問分野を越えたネットワーク形成。他の分野の方が、若手でどのような活動をしてい
るのかを知ること。可能であれば、連携した活動の模索。

若手有志 IVR 医の会

1. 若手の会名称

若手有志 IVR 医の会

2. 代表者の氏名、所属機関、職位等

井上政則（いのうえまさのり）

平塚市民病院 放射線科、科医長（東日本担当幹事）

米虫敦（こめむしあつし）

関西医科大学放射線科学講座、助教（西日本担当幹事）

3. 構成メンバー、人数

若手 IVR 医、約 200 人

4. 関連のある学協会名称、その関係

日本インターベンショナルラジオロジー学会（日本 IVR 学会）

関係は、独立の会。

5. 若手の会のミッション

若手有志 IVR 医の会の基本理念は、以下の通りである。

「若手」の定義は、あえてしない。

どんな派閥の人でも参加できるように、派閥を越えた会にするために、
『何もしない』『若手 IVR 医が懇親・情報交換をする“だけ”』の会とする。

『何かをやる会』にすると、いろいろな考え方の違いや立場の違いから、みんなが一つに集まることができなくなってしまう。本会は”場の提供”に徹して、『何かをする』のは本会で親交の深まった各個人同士に任せる。

参加については、来るもの拒まず。去る者追わず。

6. 活動内容

懇親会/情報交換会の開催。

Web ページ：<https://sites.google.com/site/wakateivr/>

7. 若手の会の課題

当該学術分野と他分野とのターフバトル。

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

1) 『行政の動きを鑑み、必要な時に若手の意見を集約して各方面に強力にアピール』について

臨床医学の分野においては、臨床医としても研修を積むために臨床病院に所属する若手研究者が数多くいます。優れた臨床研究の多くは、臨床病院での臨床研究から発信されています。しかしながら、これらの臨床病院に所属する研究者は、科研費を応募することができません。「これらの臨床病院が文科省の指定する研究施設ではない」というのが理由です。科研費の応募は施設ごとの事務取り纏めで申請のために、臨床病院で高度な臨床研究を行っている若手研究者が科研費から閉め出されています。本件について、若手研究者ネットワークから、行政に対して、何らかの働きかけをできないでしょうか？

2) 若手ネットワークの運営について

現時点ではキックオフの段階で組織の立ち上げに重点が置かれているようですが、若手ネットワーク自体がどのような活動を目指しているのかが不明瞭です。『各学会の若手研究者が連絡を取り合いました。凄いでしょ！いいね！！』だけで、終わらないよう望みます。

3. おわりに

2012年12月に実質的な活動を開始した若手研究者ネットワークも、二回目のアニュアルレポートとして皆様にご報告する運びとなりました。この二年間は主に若手研究者ネットワークの継続的かつ発展的な運用をはかるため、必要となる要件について皆様と議論して参りました。その成果として、今年度は、ネットワークのこれまでの活動内容と設立の理念をきちんとした形で記録として残すべく、提言を作成中です。ご協力いただいた各団体の皆様に、御礼申し上げます。今年度秋には、日本学術会議内に若手アカデミーが設置される予定です。これまでの活動は主に、ネットワーク設立における組織作りに注力して参りましたが、今後、ネットワークを活用した様々な活動へと継続的に発展していくことが期待されます。今後とも、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年4月

日本学術会議 若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会

委員長 蒲池みゆき (工学院大学)
副委員長 横山広美 (東京大学)
幹事 井藤 彰 (九州大学)
一ノ瀬友博 (慶應義塾大学)
林 秀弥 (名古屋大学)
半場祐子 (京都工芸繊維大学)
村上暁信 (筑波大学)
吉田丈人 (東京大学)
住井英二郎 (東北大学)
竹村仁美 (愛知県立大学)
田中由浩 (名古屋工業大学)

連絡先 : info-network@youngacademy-japan.org